

共生社会被災者支援の会

発足会 議事録

日 時 2011年3月20日午後2時から

場 所 梅田サテライト会議室（サロン）

参加者 阪野修、坂口一美、堺昭生、梁優子、空千秋、前川武志、新家潤子、尾崎力、後藤陽子、柏木宏

1) 経過報告（阪野）

坂口さんから連絡が入り、家族が被災したが、家族への支援だけでなく、4月から宮城入りした際、大阪の活動との連携をとれないかという意図を聞き、分野に提起した。

2) 趣旨提起（坂口）

・家族の被災状況も気がかりだが、小中学校を過ごしているので、三陸地方に土地勘があり、知人もいる。これを活用して、現地と大阪をつないだ支援活動を行いたい。高校生の時、宮城県沖地震で被災した経験ももつ。

・訪れるのは、宮城県でも最も被害が大きく、交通路の関係などで支援が届きにくい、地域の気仙沼や南三陸町である。

・仙台などは、救援体制がかなりできているが、石巻以北は遅れている。これからボランティアの力が必要になると思われる。

・現地で支援を行うに当たり、より有効にするために分野をはじめとした大阪からの支援がほしい。

・支援活動としては、取り残されている地域、マイノリティへの支援、支援の隙間を埋めたい。

・今後、情報収集に力を入れ、4月初めに現地入りする予定。

3) 質疑と回答

・現地での宿泊先は知人宅（気仙沼市の高台）移動は自転車になると思われる。

・ご主人が働いており、息子さんが就職するので、現地での活動における衣食住的なものは自分で確保できる。

4) 主な議論

・坂口さんを通じて、「顔の見える支援体制」を作ること、長期にわたるとされる支援活動に対する分野関係者のモチベーションをキープできるのではないかと。

・気仙沼でもボランティアセンターが救援・復興活動を始めると思われるので、そこを通じて活動した方がいいのではないかと意見に対して、まだ未開設（調整中）という。ただし、4月に現地入りするまでに開設の可能性があり、そこを通じた情報収

集や具体的な支援内容のニーズ把握などを行うことができれば良いということでは、考えが一致した。

- ・マイノリティへの支援、支援の隙間を埋めるというのであれば、現地でそうした活動をしている団体と分野関係者の団体をつないでいくようなことができないかという意見に対して、そうした団体が気仙沼などにあるかどうかかわからないが、現地で調べてみるという方向性になった。

- ・分野の関係者に連絡を取り、それぞれが個人として、また関係する団体として何かできるか「支援リスト」を作り、それに対応したニーズを坂口さんに調査してきてもらうことになった。

5) 具体的な行動

- ・メーリングリスト作成

担当 新家、後藤

- ・義捐金集めの口座開設

担当 前川

- ・現地入り

坂口、4月2日を予定（家族との再会や安否確認、状況把握などが目的）

- ・報告会

4月中に一時帰阪の際に、報告会を開催

- ・支援物資の輸送

前川さんは気仙沼まで行くことについて、物資や車の手配がつけば運転手を行う用意がある。ただし、5日までに大阪に帰着が条件で他の日時は業務上調整が必要、最大限土日を含めて5日間

- ・支援リスト作り

担当 李

6) その他

- ・会の名称

共生社会被災者支援の会

- ・他の在校生、修了生の活動

坂口さん以外の分野の在校生、修了生の支援活動とも連携を取っていくことが提起された。

- ・アメリカからの義捐金の受皿について

柏木より、アメリカで関わっていた NPO (Japan Pacific Resource Network) がマイノリティ被災者向けの義捐金を集めており、その配分先を検討する委員会を分野関係者を通じて作れないかという提案があった。この支援活動の一部とはしにくそう

なので、柏木が別途検討することになった。

・次回会議

3月26日、矢野先生の追い出しコンパの前 4時30分から5時30分

坂口一美さんについて

都市共生社会研究分野 4 期生です。宮城県仙台出身で、小中学校を通じて、宮城県気仙沼、南三陸、陸前高田などで生活されてきました。このため、三陸海岸地方に土地勘があり、知人も多くおられます。今回の地震・津波では、ご家族が被災され、お母さんは避難所、お姉さんは行方不明です。息子さんも宮城の大学に通っていたのですが、就職の関係で10日に帰阪、難を逃れたとのこと。当初は、家族の安否確認を含め、個人で行動することを考えていたそうですが、関西のNPOの支援活動について知り、組織的な活動ができないかと思い、同期生の阪野さんに相談、20日の集いになりました。なお、4月から大学院の研究生として戻り、勉強を続ける予定でいたため、3月末で仕事を辞める予定でした。研究生は一時お預けにして、4月から現地入りすることを決意、ご家族も賛成してくれているとのことでした。

以上、文責：柏木